

②セキノビット

セキノビットは最も作用が弱い排卵誘発剤の飲み薬です。

投与方法

生理5日目から1日6錠を毎食後5日間内服します。

特徴

- ①クロミフェンよりは排卵誘発効果は弱いため、一度にたくさんの卵胞が出来てしまう事はありません。
- ②クロミフェンの副作用である子宮内膜が薄くなったりとか、頸管粘液が減少したりという事は起きにくいとされています。
- ③むしろ頸管粘液が増えるケースや、内膜が厚くなったという報告もあります。

使い方

- ①クロミフェンで内膜が薄くなるとか、おりものが減ったという副作用が出た場合にはセキノビットを使うようにします。
- ②クロミフェンで卵胞が沢山出来てしまった場合に、もう少し弱い誘発剤という事でセキノビットを使用します。
- ③内膜が厚くなりやすいという特徴があるため、自然周期での凍結胚移植の際にセキノビットを使用して排卵をさせて移植を行う事があります。それにより高温相での黄体機能の改善も見込めます。